

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1493800039	事業の開始年月日	平成19年2月1日
		指定年月日	平成19年2月1日
法人名	特定非営利活動法人 折本福祉サービス		
事業所名	グループホーム 蘭寿おりもと		
所在地	(〒224 - 0043) 神奈川県横浜市都筑区折本町1374-1		
サービス種別 定員等	認知症対応型共同生活介護	定員 計	18 名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	令和 5年 2月20日	評価結果 市町村受理日	令和5年5月12日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの周りは、緑に囲まれ田畑が多く環境面には恵まれており、お散歩するには車も少なく最適だと思います。日常生活の中で利用者様と職員が仲良く一緒にお散歩することから一日が始まっていましたが、コロナ禍でなかなか思うようにお散歩、外出、外食などが出来なくなってしまい大変心苦しく思っております。フロア内の行事を優先して行っています。塗り絵、歌レク、パズル、数読等楽しませております。たまにドライブをかねご利用者様と一緒に調理パンを購入に出かけることもございます。また、季節ごとに様々の行事を行いお雛様・節分・お誕生日会・ハロウィン・クリスマス・お正月と行事食のメニューを利用者様と一緒に考えお出ししています。

ご家族様との面会は、玄関先に長椅子を設置し、ドアを開けた状態でマスク装着し行っています。(5回のワクチン接種終了の家族のみ) 面会に来られない方はリモートでお話しされています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	令和5年3月16日	評価機関 評価決定日	令和5年4月17日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の優れている点】
 ◇コロナ禍でも利用者喜んでもらう様々な工夫
 ・利用者の健康維持のために充実したレクレーションを企画している。職員が利用者から希望を聞いて、お花見、お好み焼きパーティ、餃子パーティ等を利用者と職員と一緒に楽しんでいる。歌レク、パズル、数読等も好評だが、利用者は塗り絵を特に好んで、毎日塗り絵を楽しんでいる。個人の作品が何枚にもなるので、一人ひとりの作品をファイルしている。
 ◇喜ばれる食事の提供
 ・毎週水曜日は、利用者の希望の食事を提供するようにしている。利用者との対話で、「何が食べたいか」尋ねるようにしている。また、利用者に好評の、近くのおいしいパン屋さん、利用者2名ずつ職員と一緒に買い物に行き好きなパンを選び、喜んでもらっている。
【事業所が工夫している点】
 ◇防災対策の備蓄
 ・玄関の隣の部屋が、備品の倉庫となっている。災害用大型冷凍庫があり、お肉、パンを備蓄している。別に水、缶詰もローリングストックとして備蓄している。お米は倉庫内だけでなく別に、各階毎に備蓄し、毛布やカセットコンロも常備している。隣の同運営法人とは連携し合っており、災害があった場合は、防災用の備蓄品等は共有するようにしている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	蘭寿おりもと
ユニット名	いぶき

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「利用者本位」との理念にそって管理者と職員が利用者様と同じ目線に立ち、出来る限り利用者様と関わりを持ちながら住み慣れた地域での生活を大切に地域の行事には出来るだけ参加している。(夏祭り・獅子舞など)	・蘭寿クレドの「尊敬の念を持ち続ける事」「利用者本位」の姿勢を日々確認して、職員は利用者に関わり添う支援をしている。 ・コロナ禍でも住み慣れた地域との交わりを大切にしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議では、自治会会長、民生委員、保健委員の方などをお招きしている。地域で行っている掃除などに参加している。近隣が農家なので散歩の際に野菜を下さったり、お花を下さったりとお話しをする機会が多い。	・自治会に加入し、コロナ禍前は地域の一員として、盆踊りや御神輿などに参加していた。獅子舞は、庭で交流している。 ・散歩の時に、施設の周りには農家が多いので、お花や、野菜をいただき交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などで蘭寿がどのような取り組みを行っているか説明している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会の役員、地域包括支援センターの方、市役所の方などを交え蘭寿としての取り組みを伝え、それに対してのご意見を聞かせて頂いている。	・コロナ禍のため、事業所の現況を運営推進委員に書面で報告し、意見をもらっている。 ・地域包括センターから、大きな事故を防ぐためにも、ヒアリハット報告を数多く報告してほしいとの提案があった。	・5月から開催予定の会議において、メンバーからの意見や助言をサービス向上に生かすことが期待されます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	蘭寿おりもとは、生活保護者の方がおられる為、市町村担当者とお話しする機会が時々ある。	・コロナ禍前は、区のグループホーム連絡会議で、「帰宅願望」の方のケアについて情報交換をした。 ・区の生活支援課、高齢障害支援課と、電話にて密に連携している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	時々会議（カンファレンス）などで身体拘束の具体的な例をあげ、分かりやすく指導している。また、チェックリストを活用してみんなで話し合いの場を設けている。	・身体拘束適正化委員会を2か月に1回開催している。 ・毎月のフロア会議で、適正化のための読み合わせや「してはならない行為」をチェックし、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的な虐待は見過ごすことがほとんどないが、言葉の暴力であったり、要望されていることを後回しにしたり、無視、放任したりと知らずしらず精神的に苦しめてしまうことがないように努めている。	・毎月のフロア会議で虐待防止等について学び、トイレや入浴時の言葉かけなどに注意を払い、虐待が見逃されないように注意を払っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	おりもとフロアで後見人を立てている方がいるので勉強させて頂いています。お金の管理やその他の書類作製など全てご家族が行っている為、あまり関与していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は時間を多くとり説明に時間をかけ、家族が納得して下さるように行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族・利用者にはケアプランの要望などを必ず聞き取り反映させている。運営委員会の委員様のお母様が入居されている為、ご意見を聞き利用者様に反映している。	・毎月家族に送る、写真付き近況報告に記入用紙を同封して、家族の意見、要望を聞いている。 ・家族から、体力を落とさないように散歩の要望が多く、コロナ禍でも天気の良い日は、ホームの周辺や近所の公園に散歩に出かけている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス会議、申し送りの際に職員から聞き取りを行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・管理者は、日常業務の中で職員の意見を聞いている。 ・職員が、レクレーションについて、企画書を提出し、フロア会議で話し合い企画推進している。 ・朝夕の申し送り時の連絡ノートの内容をフロア会議で話し合い、職務に反映している。 	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	まだ小学校前のお子様がいる職員には学校行事・送迎などの時間に融通を聞かせている。	<ul style="list-style-type: none"> ・管理者は日頃から気軽に職員に言葉をかけ、子どもがいる職員や予定のある職員の相談に応じて、シフト調整をしている。 ・法人代表は現場職員の状況報告を受けており、職員の勤務状況の把握に努め、人事効果に生かしている。 	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内の研修は行っているが、コロナ禍で職員の人数に限りが出てきている為、外への研修は現実難しい。	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ前は、区の主催で施設ごとの職員交換研修があった。 ・経験の浅い職員は、日々の介護の中で先輩職員から学んでいる。 ・職員に介護支援専門員試験に挑戦し合格したことを受け、資格取得に挑戦している職員もいる。 	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	コロナ禍の為、現時点では行っていない。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	当施設に入居に至るまでの経過を見学時に家族から細かい聞き取りを行っている。そこで認知症になったことで家族、本人共に「どうしていいかわからない」と訴えて来られる。一緒に認知症という病気の事を説明共有し、少しでも気持ちが楽になるように傾聴している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	同上		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	歩行不安定な利用者には訪問リハビリを、拘縮、浮腫などが見られている方にはマッサージなどで改善方向へ対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と職員とでお料理のメニューを考えたり、配膳、下膳をして頂いたり、食器洗い、食器拭きなど行って頂いたりと共同で家事を行っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に面会に来て頂いたり、定期受診に行って頂いたり家族に会う機会を多く持ち、ご本人の様子をいいことも悪いことも伝え、家族からも意見を伺っている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年賀状のやり取りさせている方には、書き込めるところまでご本人に記載して頂き、あとは職員で記載し投函するところまで手伝っている。また、電話でご家族、友達とお話されている。	<ul style="list-style-type: none"> ・入居時に本人、家族から情報を把握している。 ・コロナ禍により、家族の面会は玄関にて、冬場はヒーターを用意して長椅子に座って面会している。 ・遠方の家族とは、リモート、電話での交流を支援している。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い人同士、席を隣同士に座って頂き、よりお話がはずむようにセッティングする。難聴の方には必ず横につき、お話がわかるように通訳する。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご入院が長引き、医療の力が常時必要になって来られた方には、グループホームは難しい為、Drが常中しているような施設の紹介を行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	なかなか実際のところご本人様からの聞き取りは難しい為、ご家族様からの要望がほとんどである。	<ul style="list-style-type: none"> 施設の消灯は9時と決まっているが、テレビを見たいとの本人の希望と家族の要望もあるので、消灯時間を延長して楽しんでもらっている。 利用者から甘いものが食べたいとの希望が多いので、おはぎを食べようレクレーションを企画開催して、利用者と職員で一緒に作り楽しんでいる。 	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居までの暮らし方、家族構成、職業など認知症になるまでの経過を理解したうえで施設での対応を考えている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、朝から就寝までの過ごし方を把握し、出来る事と出来ないことを精査していき、出来ることは行って頂き、生きがいとして結びつける様に職員一同努力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議カンファレンスを開催し、利用者がよりよく安心した不安のない生活が送れるように暫定的な介護計画を作成し、本人家族からも意見を頂き修正後の介護計画書にそって介護を行っている。	・毎月のカンファレンス、3か月ごとのモニタリングにて、本人、家族、職員、医療関係者の意見を聞いて6か月ごとに介護計画の見直しをしている。 ケアプラン以外に「統一ケア個別対応表」を用いて、職員がケアプランの把握がすぐに理解できるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	会議、申し送り、連絡ノート、個別対応マニュアルなどで職員間で情報を共有し実践や介護計画書に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームの為、家庭的なムードで出来ることを行って頂き、出来ないことを支える方向で入居者様が安心してお過ごし頂けるように日々対応を心掛けている。例えば歩行不安定な方には訪問リハビリを提供している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会や消防署とは連絡を取っているが、グループホームの為、施設内でのサービスになってしまう。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほほえみ内科の定期的な往診や、毎週土曜日の訪問看護が入り、ご利用者様のお身体での状態を細かく把握している。必要な受診が認められた場合には、往診医より速やかに適切な医療が受けられる様に体制が整えられている。	・事業所の協力医をかかりつけ医として全利用者が切り替え、定期的な訪問診療と訪問看護で一人ひとりの状態把握を丁寧に行っている。 ・通院は家族対応だが、協力医の紹介状で適切な医療が受けられる安心感がある。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が週1回来られ、身体の状態を診て下さり、受診が必要であれば往診医と連携をとりすぐに紹介状を書いて下さり受診病院と連携を取って下さる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご入院された時は、病院関係者（ソーシャルワーカー）やご家族様と連携を密にし、ご本人様の早期回復に向けて、ご本人様とご家族様が安心して治療を受けられるよう、連携の強化に努めている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ほほえみ内科往診医により、ご家族様、介護者、看護師、薬剤師などを交えたケアカンファレンスを行い、ご家族様の納得の行く形で行われていくように、十分な説明を行い同意して頂いた上で方針を決定し、チーム一丸となり支援に努めている。	・入居時の説明のほか、医師が重度化と判断した後は再度家族の意向や事業所として対応できるケアについて話し合いを重ねている。 ・本人にとって最適な次の事業所が決定するまで職員、医師、看護師等とともに支援を続けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急な事故や急変にも対応できるように、各マニュアルが作成されており、全職員が対応できるように、定期的な訓練を行っている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を行っており、不測の事態に対応出来る様、職員には意識付けを行っている。また、消防署の方から各フロアの避難経路の確保や、避難方法についてアドバイスを頂いている。地域の方にも訓練の際は案内を行っている。	・事業継続計画を立て横浜市に提出をしている。年2回、隣同運営法人の事業所との合同訓練のほか、毎月昼夜間を想定したユニットごとの避難訓練も行っている。備蓄はローリングストックやリストを基に保管管理をしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各自居室が自宅と考え、訪室の際は必ずノックを行う。リビングのような共有場所で排泄に関する事など尊厳を損ねるような声掛けを行わない。職員同士で心もとない声掛け、発言にはお互いに注意しあう関係性が出来るように努力している。	<ul style="list-style-type: none"> ・蘭寿クレドに「尊敬の念を持ち続けること」「利用者本位」などがあり、支援の基本にしている。 ・過干渉にならないことも心がけている。 ・普段の関わり方と家族の前でも同じ対応ができていないかを意識するよう管理者は職員に促している。 	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	グループホームという認知症の方達ばかりなので自己決定や希望などのくみ取りは大変難しい。その中でも普段の行動を把握し、何を希望されているかを想像し、決して職員が決定することなく支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人様の状況や自己決定されたことを優先し、職員の都合や思いを優先することのないように入居者様本位という理念のもと支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容さんが2か月に1回来訪下さり理髪を整えて頂き清潔な支援を心掛けている。また、日々の身だしなみをご家族の意向も取りいれながら支援に努めている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お誕生日会や季節を意識した料理を行い楽しんでいただいている。1週間に一度の自主メニューでは、ご利用者様達が召し上がりたい物を提供している。	<ul style="list-style-type: none"> ・委託業者から届く食材を職員が調理をしている。3時のおやつも手作りを心がけている。利用者は食材の下ごしらえから後片付けまで関わっている。 ・お好み焼き、巻き寿司等「食」に関するイベントが一番人気があり、利用者は毎回楽しんでいる。 	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食分量、一日の水分量を業務日誌に細かく記載し誰が見てもわかる様にしている。個々に合わせた適切な水分量が摂取出来ていない時は必ず申し送っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々にあわせた状況やタイミングでの声掛けを行い、ご自分で出来ない方は職員が付き添い出来るだけ行って頂くようにしている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	業務日誌にはお一人おひとりの行動場所が記載されており、個々に合った排泄のタイミングを把握し、間隔などのタイミングもしっかりと覚え込み、無理のないように声掛けしている。	・トイレでの排泄を基本と考え、おむつ対応であっても日中は様子を見ながらトイレでの排泄を試みている。車イス対応の利用者がリハビリを重ね、自分で歩いてトイレに行くまで改善した事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ほとんどのご利用者様が便秘気味のため、往診医と相談しながら個々にあった便秘薬を処方して頂いている。またオリゴ牛乳などで解消を見込むなど、色々な方法を訪問看護師などにも相談している。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	声掛けにて希望を言える方には極力希望に添える様に支援している。また、入浴剤を使用し楽しんで戴いている。	・浴槽の湯は一人ひとりで入れ替えをしている。入浴剤は好みのものを選んでもらい色や香りを楽しんでいる。職員と一対一で時間に余裕を持ち、ゆったりのんびりできるようにしている。昔話が聞けたり、歌を歌う利用者もいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムや体調を把握し、ゆっくり、のんびりと休息して頂けるような声掛けを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診医、薬局と常に相談しながら、その人らしく穏やかにお過ごし頂けるように服薬調整を行ったり、中止したり状態を観察しながら管理をしている。誤薬には十分注意し、与薬時には二人で確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日、利用者様中心で歌レクを行ったり、塗り絵、折り紙、お散歩など、その方に合わせたレクリエーションを提供している。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ収束時には、今まで行っていた回転ずしに出かけたり、ドライブを兼ねお花見にでかけたりしている。たまに外出すると大変喜ばれている。	・コロナ禍だが、散歩や外気浴のほか、ドライブを兼ねた菓子パン等のちょっとした買い物、花見は継続している。ショッピングセンターでの外食やみなどみらい方面の外出、家族との個別外出の再開はコロナ収束後としている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は、すべてご家族様か事務所でやっている為、ご本人様は管理はされていない。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話をお持ちの方もいらっしゃる。そうでない方には要望があればお電話をお貸しし、お話し頂いている。お手紙。年賀状に関しては代筆させて頂いている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に室内温度、湿度の調整に気を配り、快適にお過ごし頂けるようにしている。廊下やリビングには利用者様達と一緒に作成した季節ごとの塗り絵、折り紙をはり、季節感を感じて頂いている。	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の掃除のほか換気、消毒を徹底している。 ・リビングのテーブルに季節の花をさり気なく置いている。 ・ぬり絵、パズル、歌などレクリエーションを楽しむ時間を作っている。制作品はリビングや階段に展示している。 	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有場所であるリビングで集まりやすい雰囲気を出せる様にいつもお茶を用意し、職員が笑顔で対応している。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みの家具を用意して頂いたり、家族写真を壁に貼られたり工夫を凝らした環境づくりをしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・仏壇、家族の写真、テレビ等本人が大切にしているものを持ち込んでいる。 ・ベッドの配置など居室のレイアウトは家族と相談をしている。 ・職員で協力し、整理整頓や不足品の確認など支援をしている。 	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	動線箇所には物を置かない様になっている。リビング、トイレ、居室と自由に行き来され、利用者様が安心安全に生活できるようにしている。		

事業所名	蘭寿おりもと
ユニット名	あけぼの

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員と管理者は日々、職員が事業所の理念に沿ったサービスが行えているのか、話し合い実践していける様にしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近年コロナの為、様々な行事が中止となってしまったが、獅子舞・お神輿に参加させて頂いており、地域との関りを大切にしている。お散歩でご近所の方と挨拶を交わし交流に努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	AEDの設置・こども100番の登録を行い、地域に向けて開いた事業所作りを行い、認知症の理解を深めて頂ける様な活動を目指している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの影響で定期的には行えなかったが、運営推進会議を開催しており、各方面から出た意見を職員に話、日々の業務に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	区役所の方には、定期的に連絡を取り、現況を報告している。地域に根差した活動が行える様に、運営推進委員会などで、地域の方への協力関係をお願いしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束について、正しい理解や意識を持ち合わせているのか、勉強する機会を増やし確認している。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待行為について、常に話し合える機会を多く持ち、正しい理解や意識を持ち合わせているのか確認している。職員は虐待が行われない様、お互いを注意深く見ている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学べる機会を増やし、個々のご利用者様が必要としている制度があるのか確認し、適正な状態で活用出来ているのかを確認している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前や面談の際には、ご本人様・ご家族様に細かく不安や問題点がないか確認し、十分な理解を得ているか確認している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様からの連絡や、来訪時にはご本人様の現況の細かな報告を行い、そこで得たご家族様からのご意見や要望は、管理者や職員へ報告し、改善に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は常に朝夕の申し送りや会議・雑談の中で、職員が意見を出しやすい環境を多く設ける様にしている。上がってきた意見は直ぐに代表者へ報告している。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員の勤務状況や、仕事に対してのやりがいが持っているのか、職員の状況把握に常に努めており、働きやすい環境であるか代表者と話し合っている。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、管理者からの報告により、職員の力量や能力を把握し、働きながらスキルアップ出来る体制を整えている。必要に応じて外部研修への参加の機会も設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	近年はコロナの影響により実践出来ていないが、近隣のグループホームと交換研修の場があり、お互いの活動状況を知る事により、より一層のサービスの向上に役立てている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談の機会を設け、ご本人様の今の現況やご様子を確認し、お困り事がないか、ご家族様やご本人様とじっくりと話せる場を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学から始まり、ご家族様が今不安に思っている事や、お困り事がないか、十分な時間を使い把握に努め、これからの関係性をより良い方向へ持って行ける様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様やご家族様が今必要としている支援が適正に使われているのか見極め、行えていないサービスがない様に支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はご利用者様と一緒に居る事を増やし、職員の一方向的な支援にならない様、共に生活を送る意識が持てる様な環境作りに努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様にはご本人様の現況を月末報告やお電話にて報告し、ご本人様への支援について触れる機会を多くし、ご家族様も一緒に参加して頂ける様に努めている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様やご家族様からのご要望があった場合には、連絡を取るお手伝いを行い、ご本人様の要望通りの支援が出来る様に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の関係性を良く見極め、ご利用者様同士が安心して楽しく、より良い生活が築ける様に支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、ご本人様やご家族様とのこれまでの信頼関係を大切にし、お困りの事はないか把握し、出来る支援があれば継続して行っていく。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人様らしく生活して行ける様に、ご本人様からの要望や意向の把握に努め、ご家族様からのご意見も定期的に頂いていく。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族様から、これまでの生活状況をお聞きしながら、受けて来たサービスの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子は、朝・夕の申し送りや業務日誌・PCのケース記録に細かく記載されており、特に重要な申し送りはノートへ記載するなどし、職員は常に新しい状況が把握出来る様に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なモニタリングの記載があり、職員が把握しているご本人様の現況が反映され、最終的にはご本人様やご家族様の要望を取り入れた内容が組み込まれたケアプランが作成される。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌やPCのケース記録には、ご本人様の様々な気付きや様子が細かく記載されており、職員間で情報の共有が出来る様になっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族様の今の状況を把握し、今まで行ってきた支援の見直しを行っていく。新たに出て来た支援内容があれば、速やかに対応していく。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人様やご家族様のご要望などがあった場合には、地域社会との繋がりが出来る様に支援していく。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほほえみ内科の定期的な往診や、毎週土曜日の訪問看護が入り、ご利用者様のお身体の状態を細かく把握している。必要な受診が認められた場合には、往診医より速やかに適切な医療が受けられる様に体制が整えられている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週土曜日の訪問看護では、お身体の状態から、日々の細かな気付きまで伝える様にし、看護の目から見た適切な支援が受けられる様に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合には、病院関係者や相談員との連携を密にし、ご本人様の早期回復に向けて、ご本人様とご家族様が安心して治療を受けられる様、連携の強化に努めている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ほほえみ内科往診医によるケアカンファレンスを行い、医師・看護師・職員で適切な介護・支援が、ご家族様の納得の行く形で行われて行く様に、十分な説明を行い方針を決めて、チームで支援に努める。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急な事故や急変にも対応出来る様に、各マニュアルが作成されており、全職員が対応出来る様に、定期的な訓練を行っている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防訓練を行い、不測の事態に対応出来る様、職員には意識付けを行っている。また消防署から各避難経路の確保や、避難方法についてアドバイスを頂いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人様が各居室で過ごされている時間も大切にし、お声掛けを行う時には、人格を尊重した尊厳を損ねないお声掛けを行う。職員は互いの言動を良く観察し、適切な言葉かけが行われているかを確認している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、ご本人様が希望されたり、自己決定出来る様に、職員はお一人お一人の行動を良く把握し、職員の決定に基づく事のない様に支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人様の状況や自己決定された事を大切に、職員の都合や気持ちを優先する事のない様に、マイペースに過ごして頂く。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容は定期的な訪問があり、理髪を整える事が出来る支援を行っている。また日々の身だしなみが整えられる様に、ご家族様の要望なども踏まえ、支援に努めている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お誕生日会や、季節の行事を意識したお食事を定期的に提供する様に努めている。また、食事の準備や後片づけを一緒に行って頂き、次の支援までの楽しみを持って頂く様に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	業務日誌には、水分摂取量や食事量等が細かく記載出来るようになっており、個々に合わせた適切な量が提供されているのか、直ぐに把握出来る様になっているので、その都度状況に応じた対応を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に合わせた状況やタイミングでのお声掛けを行い、ご自分で行う事が出来ない方は、職員が付いて一緒に行っている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	業務日誌には、お一人お一人の行動が細かく把握出来る様に記載されており、個々にあった排泄パターンでの声掛けや誘導が行える様になっている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	お食事内容や水分量・食事量に気を付け、夕食時にはヨーグルトを提供し、便秘の予防に務めている。また、適度な運動を促す声掛けを行っている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	個々の生活ペースや希望に沿った入浴が出来る様に声掛けを行っている。また職員の都合が優先されない様に、時間にゆとりを持って案内している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活状況に応じた時間やタイミングで就寝の声掛けを行っている。お一人お一人に合わせた居室の温度にも気を配っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬の説明書は全職員が直ぐに把握出来る様になっており、安全な服薬が出来る様に努めている。また、変更された場合には、申し送りノートへ記載し、体調の変化がないか確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの生活状況の把握に努め、お一人お一人の楽しみや役割等を見出し、生活に張り合いが持て楽しんで頂ける様、支援に努めている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナにより、ご家族様との外出支援は行えていないが、お散歩や外気浴はお天気の良い日に行える様に努めている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が出来る方は、ご自分で管理して頂いている。管理が難しい方は事務所預かりにし、必要な時には直ぐに使用出来る様にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お電話は、ご本人様からの要望があった場合には、直ぐに対応している。また、お手紙もスムーズなやり取りが行える様に、職員が間に入り支援している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間には季節感のある飾りを取り入れ、心地良い空間作りを心掛けている。また混乱が生じる様な物は置かない様に努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはテレビ前にソファを設置して、お一人でも寛げる空間を作っている。またお一人お一人の生活状況を良く見極め、気の合う方と過ごす時間が持てる様なお席の配置にも気を配っている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様やご家族様の要望なども取り入れ、安心して生活出来る様な心地の良い空間作りに努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お一人お一人のお身体の状況等を良く理解し見極めて、安全な生活が送れる環境作りに努めている。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム
蘭寿おりもと

作成日 令和5年4月17日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	3	コロナ禍で運営推進会議が中々行えず、地域の方や区役所、地域包括支援センターの方との意見交換、要望等をお聞きする機会を設けることが出来ず残念に思う。	コロナ禍でもマスク、検温、室内換気などを徹底し出来る限り2か月に1回の運営推進会議を行えるような準備をしていく。	参加者全員に体調の聞き取りを行い、会議当日は隣同士との間隔を開け、マスク装着、室内換気などを徹底する。	1年
2	10	外部の研修を行えなかった。	コロナ禍での外部研修は消極的になりがちだが、感染対策を徹底し、ワクチン接種終了の職員に参加して頂く。	研修内容など、当施設に届くものがある為、必要な研修には自ら参加していきたいと思っている。	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。